

Daito toDay



No. 6



11月+12月合併号

発行日	2018年12月17日	〒175-8571 東京都板橋区高島平1-9-1
発行	大東文化大学 学長室	po@ic.daito.ac.jp
編集	河内利治	http://www.daito.ac.jp/president_blog/

「大学が学ぶ」姿を求めて

大学と社会とが内外の区別なく連続的に接する大学の姿

大東文化大学は、大学自らが社会から学び共に成長することを目指しています。学生と教職員が相互に学び合える豊かな学びの場を提供し、教育と研究という二つの役割を一つのものとして実現する大学でありたいと考えています。

私たちを取り囲む社会に直接につながってさまざまな課題を知り、そこで生きる人たちと一緒に活動することは大学の重要な役割です。大東文化大学では、大学キャンパスと社会とが連続的につながるための仕組みを持っています。それが**大東文化大学地域連携センター**です。

地域連携センターは学生と教職員が共に地域に直接出向きそこに住む人々の生活に触れながら様々な活動をデザインし支援するための組織です。地域連携活動は学生スポーツを通じた国内外の交流と共に大東文化大学の活力の源になっています。

いま日本は人口減少という確実な未来と労働力不足という問題に迫られる中、持続可能な社会に向けての多くの課題を抱えています。地域連携活動を通じて学んだ学生たちが卒業し、活躍の場を社会に移して地域を支える人材となっていきます。海外を含め様々な地域に育ち本学に集った学生が再び地域を育み、そのつながりが大東文化大学に返ってくるという循環の中で、大東文化大学は地域の息遣い、人の優しさ・生きる喜びや喘ぎに丁寧に耳を傾け、社会の未来に希望を添える活動を続けていきたいと願っています。



地域連携センターの地元活動

大東文化大学地域連携センターでは、本学板橋校舎の地元である東京都板橋区ならびに東松山校舎の地元である埼玉県東松山市、ときがわ町、鳩山町での地域活動を行っています。

「なかいた環創堂」は中板橋駅商店街を活性化させる活動、「みらいネット高島平」では高島平地域の魅力創出と再活性化を応援しています。「地域デザインフォーラム」では板橋区との共同研究を通じて21世紀の地域社会の課題に取り組んでいます。

東松山市での「子ども大学ひがしまつやま」は子どもの学ぶ力や生きる力を育み、地域ぐるみで地域の子供達を育てる取組です。「日本スリーデーマーチ」は比企地域で開催されている日本最大のウォーキングの祭典「日本スリーデーマーチ」に協力・協賛しています。ときがわ町との地域連携協定では学生を派遣したスポーツ競技指導、国際交流事業や東松山キャンパスでの中学生の大学体験などの活動を行っています。鳩山町の「『環』のまち元気づくりプロジェクト」では学生のフィールドワーク活動「大豆のアジア学」を実践しています。

地元地域の人々との交歓を通じて大東文化大学は豊かな学びを経験してきました。

なかいた環創堂



子ども大学ひがしまつやま



みらいネット高島平



鳩山町 大豆のアジア学



日本スリーデーマーチ



ときがわ町での陸上競技指導



宮城県 東松島市との交流事業～東松島フレンドシッププロジェクト

『2011年3月11日14時46分はどこで何をしていたか』、私たちはこれからも語っていくでしょう。2011年3月11日に発生した東日本大震災は自然災害の範疇を越えて社会のあり方について問い直す分岐点となりました。もちろん、それまでの幾多の痛ましい災害とその悲劇は忘れ去ることができません。それでも東日本大震災は災害の広範さだけでなく、私たちや社会の深部まで及ぶ大きな問いを今なお発し続けています。

キャンパスの1つが東松山市にある大東文化大学では、市名称が一文字違いという縁もあって多くの学生が宮城県「東松島市」への応援活動を続けてきました。2015年度から、互いの末永い友情と発展を願って交流事業「東松島フレンドシッププロジェクト」として新たな一歩を踏み出し、さらに2017年1月には本学と宮城県東松島市との間で地域連携基本協定を締結しました。交流事業として継続性を持たせて、東松島の復興に最後まで責任を持って参画していくことが本学の責務と考えています。



管弦楽団によるコンサート
当初の復興応援コンサートから「東松島フレンドシップコンサート」に名称を変え2013年から毎年実施しており、東松島市や近隣市町村の多くの地域のみなさまに鑑賞していただいています。



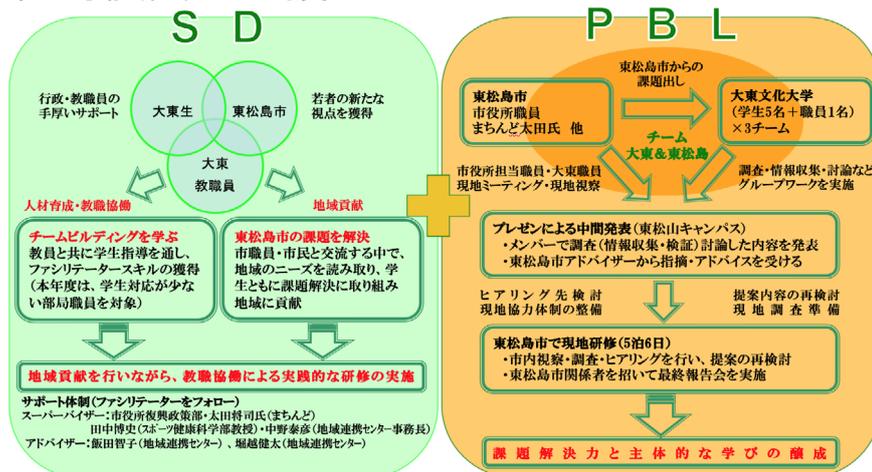
ローバースカウト部
東松島市で活動されている方々の指導の下で、津波で地形が変化した海底に設置する「岩礁」の製作や、林木の間伐作業補助による森林環境の整備など、時期に応じて必要とされる活動を実施しています。

PBL と SD を組み合わせた東松島復興の応援

東松島フレンドシッププロジェクトでは、学生の課題解決型学習（PBL: Project-Based Learning）とスタッフ開発（SD: Staff Development）の考え方を組み合わせ、東松島市役所職員とが一体となって活動を行っています。

大東文化大学の教育改革のひとつとして進めているPBLの促進と社会で活躍する「大東人」の育成をめざす全学プロジェクト Daito Education PLUS 事業によって学生教育を活性化し、さらに本学の教職員を対象とした大学の管理運営や教育・研究支援などの技能や資質向上のための組織的取組みであるSDという2つのフレームワークの中で地域連携活動を位置づけ、東松島フレンドシッププロジェクト活動を行ってきました。

東日本大震災からの全面的復興は私たちの社会の生命線です。なお一層のみなさまのご理解とご支援をお願いいたします。



学長室から 2018 年を振り返る

2018年4月に学長室が開設され、8名の室員によって月2回の会議を中心に活動してまいりました。これまでに、学術研究の推進に向けた施策、学生の居心地の良いキャンパスづくり、教員の採用やその選考に関するあり方、社会人基礎力も含めた基礎教育のあり方、教養教育の充実に向けた検討など、非常に多くの課題と向き合い、議論を進めてきました。いずれの課題も、ただちに結論を得られるものではなく、引き続き検討しなければならないことも多いのですが、できるだけスピーディーに政策提言できるよう、議論をギアアップしていきたいと考えています。2019年からは、いよいよ本学での新たな長期計画「DAITO VISION 2023+10」の策定に向けた議論が始まります。18歳人口の減少という我が国の現実を踏まえて、大学がどのようにあるべきかを考え、積極的な議論を展開していきます。

どうぞみなさまもよいお年をお迎えください。来る2019年がみなさまにとって、大東文化大学にとって良い年となりますよう祈念いたします。

■ 学長室の 2018 年

- 4月 学長室発足
- 4月～12月 月2回の定例室員会議
- 7月 芝浦工業大学への視察（学術研究の推進）
- 8月 立教大学への視察
（学生の居心地の良いキャンパスづくり）
- 9月 大学執行部+学長室合同合宿
- 11月 桜美林大学への視察
（基礎教育・教養教育のあり方、大学のガバナンス）
- 12月 桃山学院大学・龍谷大学関西学院大学への視察
（PBLのあり方、長期計画の策定）